



京大病院 リスクマネージャーのみなさま、こんにちは。

2021 年度 1 回目のリスクマネージャー・メールマガジンです。

項目：

1. 新年度のご挨拶

2. 正しい手元情報と照合し、確認する

1. 新年度のご挨拶

2021 年度 1 回目のリスクマネージャー・メールマガジンをお届けします。

先日は、リスクマネージャー全体会議、お疲れ様でした。

1 時間の間、Web で報告ばかり受けているのは、辛いかもしれませんね。

昨年度よりすっかりおなじみになった Web 会議。

2019 年度までは、毎月開催していたリスクマネージャー会議も、

年間 2 回の全体会議だけに縮小し、4、10 月以外は、周知依頼事項の

メールでの情報発信になりました。

「周知依頼事項」は、公式のご連絡です。これは、必ず、部署・科内のメンバーに周知してください。

周知されたことを医療安全管理室の事務担当がチェックしています。

周知した、しない、を記録に残しています。この記録は、厚生局の立入調査でも提示しています。「1 回も周知していませんね！」等との指摘がなされないように、周知してくださいね。

それだけでと、本当に医療安全管理室が忘れ去られてしまう・・・かも、と思ひまして、ちょっと気楽なメール・マガジンを昨年度はお届けしました。執筆者の気まぐれで不定期に届けています。月に 1 回程度を目安に、リスクマネージャーの皆さんと「リスクに関する情報」を共有します。

こちらは、非公式の気楽なつづやきです。気楽に読んでください。
読み飛ばしてもらっても結構ですが、ちらっと流してみてもらえると
うれしいです。

2. 正しい手元情報と照合し、確認する

さて、今回は、3月25日に配信した項目と同じ内容「正しい手元情報」を
再び取り上げます。新しいリスクマネージャーもおられるからです。

リスクマネージャーの皆様は、自部署・科のインシデント報告を受け取って
おられますね。その際、確認不足のエラーも、わりとよく見かけませんか？
例えば、「輸液ポンプのセットを間違えた」、「薬剤投与量が多かった」。

このような「行動段階の誤り」についての報告があれば、「正しい情報」
を知っていたのかな？ということ意識してみてください。

私たちは、皆さんにこれから繰り返し「正しい手元情報」という言葉
をお伝えしますので、この言葉もどうぞ覚えてください。

「正しい手元情報」とは・・・

例えば輸液ポンプの流量設定であれば、流量指示、予定量指示の
情報が手元にあって、それを輸液ポンプの設定時に打ち込みますね。
ちょっと複雑なのは、指示書が最新版の情報でないことがある、という
ことです。その後に流量指示が変更されているかもしれません。

注射ワークシートを一般病棟では指示書としています。印刷時刻より
後で流量変更があった場合には、指示書は、もはや正しい手元情報
ではありません。

注射オーダーの流量指示以外に、流量変更を「一般指示」で指示変更
しているようなことがあり、情報が一元化されていないのが原因です。

昔のように紙の指示簿があったら、それが唯一の正本であったのですが、
電子化されている今は、かえって複雑になっています。

何年も前からこの問題の解決に取り組んでおり、電子カルテのシステム
も改修してきました。ただ、使いにくい、複雑という声もあって、現在、

改修したシステムを<残念ながら>非表示にしています。

それ以外に、単なる操作ミスもあります。ポンプへの数字打ち込み間違いです。これを減らすのは、正しい手元情報との照合の意識です。

同じことは、ファックスの誤送信<番号入力ミス>でもいえます。

数字のボタンを押したら、すぐに、送信・設定ではなく、今後は逆方向に「押した番号を見て」→「正しい手元情報と照合」
これにて、誤りが減ります。「逆方向で2回目の照合」ということを現場でアドバイスしてみてください。

その他、「指差し呼称」も有効です！私(室長)は、ファックス送信時には、逆方向の2回目の確認+指差し呼称を実践しています。

では、今年度1年間、新しいリスクマネージャーの皆様、あるいは、ベテランのリスクマネージャーの皆様と一緒に、本院のリスク管理に取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

今回は、「正しい手元情報」について、お伝えしました

…一京大病院 医療安全管理室ホームページはこちら ……

トップページ <https://www.kuhp.kyoto-u.ac.jp/~wwwrisk/index.html>

このメールは京大病院リスクマネージャーにお届けしています。

【お問い合わせ等】

京大病院 医療安全管理室

内線 4694